

〈優秀賞〉

登録番号0009 作品名 大学村の家 住宅 新築

北海道で暖かいオール電化の家を実現する。(詳細はNo.4に記述)

故郷の高校の友人の要望は「快適で暖かい家」であった。
その為に雪国の長い冬に耐えられる強固な外装を心がけた。
暖房はランニングコストと安全性を考慮して深夜電力を利用する「土壌蓄熱式の床暖房」とし、給湯、浴槽加温等は電気温水器を使用した。

外観は札幌の景観にマッチした勾配屋根とし、厳しい風雪に耐えうる装備とした。

敷地はもともと北海道大学の教職員のための住宅地であったところである。
以前は古い三角屋根の家が並んだ閑静な街並みであったが、年とともに勾配屋根の家が減り、殆どが無落雪が目的のフラットルーフの家になり街並みが味気なくなっています。
そこでこの建物は勾配屋根にこだわり、本来の札幌の景観を保つことに心がけた。
外観は単純な三角屋根の形を屋根から壁まで鉄板でスッポリ包み、北海道の大自然から家人を守る強い意志をあらわした。

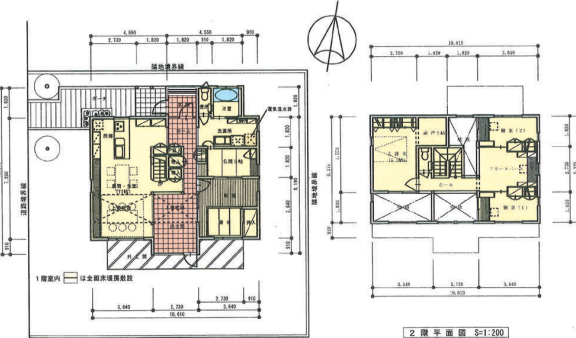
言わば「鎧を着て風雪に立ちはだかる開拓者」のイメージを外観で示してみました。

深夜電力の利用で光熱費が従来より大幅ダウンしたと喜ばれる。

坪単価は50万円で仕上げた建築ですが、クライアントの評価は高く厳冬でも床暖房は大変に暖かく、しかも光熱費は従来より大幅ダウンしたとの喜びの報告を頂いている。
これには施工会社をはじめ関係各位の努力に負うところも多く感謝しているところである。

■配置平面図(必ず枠内に方位、室内外の機器の配置、床暖房敷設場所等を示して下さい。図面貼付可)

黄色とピンクは床暖房を示す。



4枚構成中のNo.1



内部吹抜 (1)



内部吹抜 (2)



内部吹抜 (3)



内部吹抜 (4)



吹抜を渡るブリッジ



階段・内土間・吹抜

登録番号 No.0009 作品名 大学村の家 用途 住宅 新築 4枚構成中No.2



外観 (1)



外観 (2)



外観 (3)



内部土間 (1)



内部土間 (2)



内部土間 (3)

登録番号 No.0009 作品名 大学村の家 4枚構成中No.3



和室移動量台



居間・食堂・厨房



2階子供部屋



2階フリースペース

登録番号 No.0009 作品名 大学村の家 4枚構成中No.4

大学村の家

敷地は札幌市の中心部から北へ3kmほどの位置にあり、昔から「大学村」と呼ばれ、もともとは北大の教職員のための住宅地として開けた地域である。クライアントは40代の飲料販売会社に勤めるサラリーマンで、夫婦と小学校6年、3年の男の子の4人家族である。昔の大学村の印象は、古い三角屋根の家が整然と並んだ閑静な街並みであった。当時は札幌の街中に三角屋根や急勾配の屋根が競うように建ち並び雪国の街並みを特徴づけていた。私が札幌を離れておよそ30年、年とともに勾配屋根は減り、ほとんどが無落雪のフラットルーフになり、帰省するたびに街並みが味気無くなっていった。いつの日か故郷で住宅を手掛ける機会があれば勾配屋根をかけようとの思いがあった。

高校の同級生でもあるクライアントの要望は「快適で暖かい家」であった。設計はいつものように「社会の最小単位の共同体としての家族が、どのようにして個性的で豊かなコミュニケーションを育んでいけるか、それを支える環境としての空間はどうあるべきか」を問い掛けることから始まった。雪国の冬は長く、閉ざされて外とのかわりが遮断される。重装備なくしては外とかわることはできない。この住宅では「風雪から守られた外空間」を内に取り込むことが、内に外を創ることが全てとされた。プランの真中を貫く土間は玄関から居間の奥まで入り込んでいる。ここはダイナミックな吹き抜け空間であり、トップライトから光があふれる光の軸である。ここは内でもあり外でもある。憩いの居間であり汚しても良い作業場である。来客を長靴を脱がずにもてなせる応接間でありジンギスカンテラスである。活発な男の子達がこの空間をどのように仕立て上げるのか、設計者の思惑をはるかに超えた意味がもたらされるのではないかと期待している。

はじめて採用した土壌蓄熱式輻射床暖房システム(サーマスラブ)が全館を快適な温度に保ちダイナミックなオープンスペースをサポートしている。

外観は単純な三角屋根の形を屋根から壁まで鉄板でスッポリ包み、北海道の大自然から家人を守る強い意志をあらわした。鎧を着て風雪に立ちはだかる開拓者であろうか。

超ローコストであったためクライアントの理解を得て内部仕上げを石膏ボード張り放しとしたがサーマスラブ、2階の蓄熱式ストーブ、造り付けの家具、電動式トップライト、特注のアイランド型システムキッチンなど全ていれて(杭工事、解体費は除く)坪単価50万で仕上がったのは、施工会社の努力に負うところが大きく感謝している。全館オープンな空間であるが、サーマスラブの採用で厳冬でも大変に暖かく、しかも光熱費が従来より大幅にダウンしたとクライアントから喜びの報告があった。



内部吹抜 (1)



内部吹抜 (2)

受賞者 有限会社LES都市建築設計事務所 (代表者 川崎淳二様) 埼玉県所沢市

建築の概要 (木造2階建。高気密・高断熱仕様)

北海道の寒冷地に建つ木造のオール電化住宅。暖房は夜間電力を利用する土壌蓄熱式の床暖房。寒冷地で夜間電力のみで暖房、給湯を100%賄うには建築の機密性と断熱性が生命線となるが、それをローコストで実現したのは設計力と共に設計者が記述しているように施工会社や関係者の努力の成果というべきである。

設備の特長 (ガスや灯油を全く使用しない完全なオール電化住宅)

1階の暖房は夜間電力利用の土壌蓄熱式の床暖房。2階は同じく夜間電力利用の蓄熱式電気ストーブを3台使用する。この暖房により寒冷地でも一日中暖かく過ごせるのは建築の高気密・高断熱の効果も大きく寄与していると推察される。給湯は深夜電力温水器を使用し、厨房はIHクッキングヒーターを使用するオール電化。熱機器関連のメーカーリスト: 電気温水器は三菱電機SRG-4656SL(5.4KW)、床暖房はサーマスラブ(8KW) サーマエンジニアリング(株)